

2020年 5月17日礼拝式次第

日本基督教団半田教会  
横山良樹牧師

**招詞** : 詩 68 篇 20～21 節

主をたたえよ 日々、わたしたちを担い、救われる神を  
この神はわたしたちの神、救いの御業の神  
主、死から解き放つ神

**讚美歌** : 21-13 番 (みつかいととともに) より 3 番のみ

まことの神にて まことのひと  
あがないぬしなる 主をあがめよ  
かんむりをささげて 主とあがめよ

**詩篇交読** 61 篇

**祈 禱**

すべてのものを造り、歴史を支配される全能の父なる神さま、教会の暦ではただいまは主イエスが復活されたイースターから天に昇られるまでの間、親しく弟子たちに伴われた 40 日間にあたっています。主を裏切り、ユダヤ人たちを恐れて、家に鍵をかけて閉じこもっていた弟子たちのところに復活の主は幾度も訪れ、彼らの真ん中に立ち、あなたがたに平和があるようにと祝福を与え、聖霊の息吹によって彼らを力づけられました。疑い惑う者にはその傷跡を示し、指を入れてみるようにとさえおっしゃられました。キリストが苦難をへて十字架にかけられ、三日目に復活することは預言をされていましたが、弟子たちは信じる事が出来ませんでした。いまわたしたちも世界をコロナウィルスが覆いつくす中、鍵をかけて閉じこもるか、逆に落ち着きをなくしたように振る舞うか、たがいにみずからの命を保とうとして、また他者の命を大切に思うゆえに、みずからの手を縛るような生活をしております。しかし、わたしたちの命は、主よ、ただあなたの御手の中にあります。わたしたちの命はあなたの御計画のなかに置かれており、あなたが最も良い形ですべてを取り計らってくださいることを、キリスト・イエスのゆえに信じ、委ねることが出来る幸いを、心から感謝いたします。どうか、わたしたちを

憐み、主の平安をお与え下さい。信仰による落ち着きをお与えください。聖霊の働きによって、わたしたちを清め、整え、恐れを吹き払って、あなたのための働きを成すものとして用いてください。いまからみ言葉に聴きます。御言葉のなかに命があります。どうかあなたの命に触れさせてください。世代の課題と悩みを負って歩むわたしたちにあなたからの永遠のいのちの言葉をお与えください。語るものを清め、聴く者の心のうちにあなたのみ教えを刻んでください。そして、備えられた持ち場へ、力を与えられて帰ってゆくことが出来ますように、聖霊によって導いて下さい。この祈り、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

**聖書朗読**：テサロニケの信徒への手紙 1 1章 1～4節

パウロ、シルワノ、テモテから、父である神と主イエス・キリストに結ばれているテサロニケの教会へ。恵みと平和が、あなたがたにあるように。

わたしたちは、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こして、あなたがた一同のことをいつも神に感謝しています。あなたがたが信仰によって働き、愛のために労苦し、また、わたしたちの主イエス・キリストに対する、希望をもって忍耐していることを、わたしたちは絶えず父である神の御前で心に留めているのです。

**讚美歌**： 21－120番「主はわがかいぬし」（3番）

主はわが魂 生き返らせ 憩いの水辺に 伴いたもう

**説教**： 「希望をもって忍耐する」

先週の月曜日でしたか、教会に一本の電話がかかってきました。正確には、その電話を切った後、10分くらいしてまた電話がかかってきたので二本ということになるのですが、二度目は知多奥田キリスト教センターにかけたのが転送されて対応することになったのです。あ、さきほど、お断りしましたと言って切ったのですが。電話の内容は、グッドニュース宣教会の者ですが、聖書セミナーをインターネットでやるから参加しませんかというお誘いでした。しゃべり方でおそらく韓国の福音派系の人かな、と思い、また決定的に

不審を抱く理由があったのでお断りしたのですが、三日後に中部教区から注意喚起のメールが送られてきました。

「このところ、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの教会が礼拝に集まれなくなる中、「グッドニュース〇〇教会の宣教師」「〇〇喜びニュース教会の学生」などから Facebook や Message、教会のメールなどを通して「インターネット聖書セミナー」「ZOOM 聖書勉強会」などの案内が送られています。これは、薬事法違反や不動産に関する刑事事件を起こしている破壊的カルト「救援派（クオンパ）」による活動です。セヴォル号沈没事件で一躍有名となったところですが、日本でもキリスト教系団体と称して活動しており、正体と目的を隠して公共の施設で勧誘するなどの事例が報告されています。既に、中部教区の一部の教会にも、メールや Facebook メッセージなどを通して、これらの案内が届いています。おそらく、ホームページ上の問い合わせフォームやメールアドレスを公開している教会にまとめて案内を送っているものと思われます。オンラインでの礼拝に参加する人、礼拝の配信を検討している教会も増えてきたので、知らずに参加してしまう牧師・信徒が教団の中にも出てくるかもしれません。これらのセミナーやオンライン集会への勧誘に警戒するよう、至急、呼びかけていただけるよう、どうかよろしくお願いします。」、こういう連絡でした。

わたしが不審に思い、真面目に取り扱わなかった理由は簡単で、電話が非通知だったからです。およそキリスト教の牧師なら、身分を隠して電話をして勧誘などあり得ない。パウロの表現を借りるならば「キリストを着て」いるわたしたちが身分を隠して、非通知で、福音の勧誘をするなどあり得ません。山の上にある町は隠れることができませんし、灯りをともしてベッドの下に置く者もいないのです。たとえば、テサロニケの信徒への手紙の冒頭を、パウロは次のように始めました。「パウロ、シルワノ、テモテから、父である神と主イエス・キリストに結ばれているテサロニケの教会へ。恵みと平和があなたがたにあるように。」、まずこのように堂々と名乗りを上げています。福音は匿名で伝わるものではありません。わたしたちがキリストに導かれたのも、すべて具体的に、誰かを介して伝えられたものであったはずです。神さまは、他にどのような手段をおとりになることが出来たにもかかわらず、わたしたちを用いて福音を伝えることを選ばれたのです。テサロニケの人々は、パウロを通して、生けるイエス・キリストに出会ったのです。今回、怪しげな電話をかけて来た偽キリスト者たちは、この最も大切な基本を外していました。神は人間を用いて働かれ、その恵みを現わされるのです。そのわ

たしの部分を隠して、非通知にして伝わるものなどありはしません。牧師の生活は金魚鉢だと神学校で言われました。みなに見られる。決して立派な人格というわけには残念ながらいきません。人をつまづかせる欠けのある器です。しかし、その欠けの部分から、福音によって生かされる歩みが見えなければ証にならないと教えられました。以前、半田教会の修養会に来て下さった小泉健先生が、キリストの通りの良い管としてわたしたちが用いられるようにと祈って下さったこともありました。キリスト者はみなそのようにして用いられるのです。この手紙を通して、パウロは神に感謝をささげていますが、その理由は、さまざまな試練や迫害を通して、テサロニケの信徒たちが信仰の力を周囲に示しているからです。愛による労苦や、希望をもって忍耐することで、周囲の人たちにキリスト者として証をたてているからです。そのことがパウロは嬉しくてたまらない。キリスト者はノックダウンされることはあっても、ノックアウトされることはない。打ち倒されても立ち上がる。苦難が忍耐を、忍耐が練達を、練達が希望を生むような、そのような恵みによって生かされる信仰の力を神さまから与えられている。「主われを愛す。主は強ければ、我弱くとも恐れはあらず」という秘密に守られている。おお、この人たちは信仰によって生かされ、守られている。この喜びと感謝を、パウロはテサロニケの信徒たちと分かち合いたいと手紙を書いているのです。キリスト者になると、それ以前とは異なった生き方が次第に身についてゆきます。それはこの手紙の挨拶の部分にはっきりと表れています。もう一度よみます。「パウロ、シルワノ、テモテから、父である神と主イエス・キリストに結ばれているテサロニケの教会へ。恵みと平和が、あなたがたにあるように」。ここには信仰者の生き方の基礎が据えられています。つまり、わたしたち信徒は、父なる神と主イエス・キリストに結ばれている存在であること。この神とキリストから、恵みと平和が与えられるという信頼にたって、人格と人生と共同体を作り上げること。これです。キリスト者になることは、パウロのように願う存在となることです。すべてを、神さま、イエスさまを經由して願う存在となることです。結び合わされているのですから、信仰の二人三脚以外の生き方はありません。わたしが何かをするのではありません。それで問題は解決しません。神が望まれるならばそれは実現をする。むしろ、わたしの行こうとする向きが御心に適っているかを吟味することが第一です。わたしたちがキリストの通りの良い管として用いられる時、神の御心が、わたしたちを通して実現します。パウロがここでテサロニケの信徒たちに、恵みと平和があるようにと願ったことも大切です。ギリシア語ではカリスとシ

シャロームと言いますが、恵みは、信仰生活をつらぬく最も重要な柱です。「今あるは神の恵み」を口癖にしておられた信徒をわたしは知っています。恵みとは、つまり、いただくものです。神さまからいただくものによって生かされるのだと弁えること、この恵みに信頼することがシャローム、神さまから与えられる人知を超えた平安・平和につながるのです。「旧約聖書の真珠」と喩えられ、多くの信仰者を力づける信頼の詩篇 23 篇は皆さんもよくご存じでしょう。「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない」から始まり、「たとえ死の陰の谷を歩むとも、わたしは災いを恐れません。あなたが共にいて下さるからです」と信頼を告白し、最後に「命のある限り、恵みと慈しみはいつもわたしを追う」と詩人は結びます。神さまの恵みがいつもわたしを追ってくる！なんと素晴らしい信頼でしょうか。パウロは、良き羊飼いである主イエス・キリストに結ばれる信徒たちには、父である神さまと主イエス・キリストから、恵みと慈しみがいつも追ってくる、そう確信していたでしょう。パウロはもちろん知っていたのです。テサロニケの信徒たちが希望をもって忍耐することが出来ているのは、この神さまとイエスさまから送られる恵みが、彼らのうちに平和を生み出しているからだ。まさにテサロニケの信徒たちはいま、主は生きておられる！ことを体験し、証しているのです。伝道者にとって、これ以上の喜びはありません。感謝はありません。このように、神さまとイエスさまから頂く恵みと平和によって生かされる喜びが、わたしたちの喜びです。この喜びは、父である神と主イエス・キリストから、「わたしの外から」頂く恵みであるゆえに、奪うことの出来る者は誰もいない。ここにくじけない平和と落ち着きの基礎が据えられているのです。この恵みを心に刻んで、それぞれの持ち場へと遣わされていきたいと思います。

お祈りをいたします。

神さま、暗い夜のあいだも守られ、新しい朝、新しい命に生かしてください、感謝をいたします。わたしたちのまわりを「暗い夜」が覆っているのを実感する日々が続きます。愛知県は緊急事態宣言があげましたけれども、コロナウィルスの脅威がかんたんに去ったわけでないことを知っています。コロナでマヒした経済や、雇用や、疲れたからだや心、将来に対する不安が社会を覆っています。しかし、わたしたちはあなたに結ばれ、信仰によって守られています。これからどんどん悪くなるという不安ではなく、わたしたちの忍耐は、夜明けは必ず訪れるという、夜回りが夜明けを待つように、あなたが

わたしたちのうえに義の太陽を登らせてくださることを信じる事が出来る希望にあります。どうか、この主に委ねる信仰によって、恵みに用いられる信仰によって、主の民をお守りください。この感謝と祈り、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

**讚美歌 21-357 「力に満ちたる」(4番)**

世界の国々、その支配者  
み神のみ旨を おののき聞け  
み業をあがめて うやまいつつ  
み国に来たりて み名をほめよ

**献 金**

**報 告**

添付の週報をご覧ください

**祈 禱**

主の御名が崇められるように。コロナウィルス感染症対策下で、医療・介護・福祉に従事する方たちのために、ともに礼拝をささげる日が与えられるように。

**主の祈り**

天にまします我らの父よ  
ねがわくば御名をあがめさせたまえ  
御国を来たらせたまえ  
御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ  
我らに罪を犯す者を 我らがゆるすごとく  
我らの罪をも ゆるしたまえ  
我らを試みにあわせず 悪より救い出したまえ  
国と力と栄とは 限りなく汝のものなればなり

アーメン

祝 禱

主イエス・キリストの恵みと、  
父なる神の愛と  
聖霊との親しき御交わりが  
主の恵みのご支配を信じてこの世を生き抜く  
あなたがた一同の上に、とこしえにあるように。

アーメン！